

# シロエゾマツ保護林

## 概要

設定年：昭和 31 年 面積：17.60ha  
 傾斜：8 度 斜面方位：西 標高：50m 土壌：B<sub>D</sub> 型  
 林床植生：シダ類

## 所在地

厚岸郡浜中町字火散布 釧路管理区 42 林班 02 小班



## 設定の目的

シロエゾマツは、昭和 26 年に当時の北海道大学教授の館脇操博士によりクロエゾマツの変種として鑑定されました。道内における分布も非常に稀なことから、昭和 31 年に保護林として生態や成長推移を観察し、学術研究に資するとともに施業の参考とする目的で設定されました。道内におけるシロエゾマツの分布は、過去には大雪山系、知床半島、日高山系にも見られましたが、そのほとんどが伐採されました。このことから、当保護林は、シロエゾマツが群生する森林として貴重な存在となっています。



保護林看板



シロエゾマツ樹皮  
 (エゾマツに比べ白っぽく、裂け目が浅い)

## 森林の現況

保護林内におけるシロエゾマツの総本数は、平成 12 年現在 409 本（23 本/ha）で、その他の樹種（トドマツ、広葉樹）を含めると、林分全体で 14,507 本（824 本/ha）の樹木が現存しています。シロエゾマツは純林を形成することはほとんどなく、天然林内で樹群を構成するか、もしくは単木であっても数個体が近くに散在し、他の樹木と混交することが多い樹種です。現在保護林内のシロエゾマツは、約 7 割が 36cm 以上の大径木となっており、34cm 以下の小中径木が極端に少なく、資源の保続が難しくなっています。林床植生はクマイザサ・シダ類が繁茂し、天然更新があまり期待できず、また過去にシロエゾマツを植栽していますが、後継樹を増やすには至っていません。今後はシロエゾマツ資源育成のために、当保護林で新たな天然更新技術を模索していきたいと考えています。



保護林内の様子  
（黒っぽい肌で太い木 2 本が  
シロエゾマツ）